

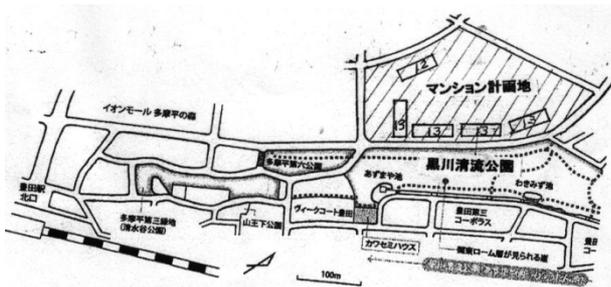
市民環境大学OB会 ニュースレター



第17号 2017年11月16日 発行

黒川清流公園の湧水

黒川清流公園の湧水枯渇危機！！



黒川清流公園とマンション計画地の位置関係

現在、中央線豊田駅近くの旧公団多摩平団地が老朽化のため多摩平の森として新築更新されています。そのなかで図に示している一角では平成30年3月着工の予定で13階建てマンション5棟が計画され、このうち3棟は黒川清流公園に沿って建築予定です。

一方、黒川清流公園の東西方向の崖線では日野市最大の湧水群が分布し、「東京の名湧水57選」の一つとなっています。しかし今回のマンション3棟はその地下水脈を分断する形の配置となっており、地中深くに大量の基礎杭が打たれた場合、湧水源の地下水脈が破壊され、湧水枯渇の恐れが懸念されます。

市民環境大学OB会では、日野市の貴重な財産である湧水に大きな価値を見出し、枯渇という危機を避けるべく定期的に湧水量調査をしています。今回の問題はOB会としても看過できないとして会員に意見投稿を依頼しました。今号では緊急特集号として皆さんの意見を掲載し、計画の見直しにより湧水枯渇のない形の解決を期待します。今回の問題は我々にとって非常に急な話であり、参考までに問題発覚から現在までの動きについて以下時系列的に記載します。

- 8月28日 多摩平の森新築工事について近隣住民への説明会
- 9月2日 市議会議員I氏より多摩平の森建築計画について報告
- 9月7日午前 水と緑の日野・市民ネットワークへ計画報告
- 9月7日午後 事業者から小倉先生へ説明あり、小倉先生より事業者へ要望書提出
- 9月22日 水と緑の日野・市民ネットワークでの勉強会
(岡田都市計画課長の概要説明、神谷博氏コメント)
- 10月23日 事業者からボーリングデータ速報値の説明
- 11月2日 水と緑の日野・市民ネットワークへの説明会
(岡田都市計画課長の概要説明)
(事業者によるボーリングデータ、地下水観測井戸の説明)

投稿 多摩平の森 新築工事について

環境大学OB会 会長 飯島利三

表記の件につきまして、市議会議員のIさんより9月2日に情報を頂きました。それは、黒川清流公園の北側の日野台地に13階の共同（集合）住宅640戸が建てられ、そして高層のため大変深い杭を打ち込むようです。たいへん戸惑いびっくりしました。さらに、来年3月着工予定という話で、一層驚いてしまいました。

黒川清流公園は関東平野の隆起にともなって、長い長い年月をかけて多摩川と浅川によって育まれてきた自然遺産です。すばらしい河岸段丘です。段丘崖は誕生以来止まることなく湧水が出ています。このことで段丘崖の湧水地特有の植物をはじめ、野鳥や昆虫など数万年かけて生き続けてきた仲間が生活しています。これらの仲間たちは一度湧水が止まれば、ひとたまりもなく枯死消滅してしまいます。

この段丘崖で湧水とともに生き続けてきた仲間たちを後世に伝えていくことが今の私たちの最大の責務であるように思います。そのためには自然の営みに最も負荷を小さくする工法をもって工事をすすめていくことが最も重要です。黒川清流公園を中心とした湧水群や植生そして昆虫などすべてのものが市民の財産であり、だからであると思います。より多くの眼でしっかりと見つめることで大切な財産を守りましょう。

投稿

湧水への影響が心配

環境大学OB会

田中 徹

最近私は黒川清流公園周辺の地下水の流れ、分布に関心があり日野台地の深井戸ポンプの状況を調べていました。巨大マンション建設が進行中の情報に接し驚き、心配しています。私の身近でも建物の建設で湧水が枯れたり、枯れていた湧水が3・11の地震直後に再び湧き出したりしています。地下水の流れや分布は解らないことも多いのが実情で、何が起ころか解らないのです。高層マンション建設は地下深くまで杭打ち（パイル打ち込み）をします。その際、黒川清流公園の地下湧水の流れが破壊、損傷される危険が十分あります。湧水が枯渇したり湧水量減少などが起これば取り返しのつかないこととなります。

私は黒川清流公園にほれ込んでホームページを作り発信しています。私のフィールドワークの場所でもあります。湧水に恵まれた黒川清流公園は後世の人達に引き継ぐ大事な遺産です。近隣住民への説明会だけで済む問題ではありません。日野市民、環境団体、行政、市議会などオール日野が真剣に向き合う問題と考えます。

投稿

黒川清流公園が干上がる！？

環境大学OB会

原田武司

9月のOB会で小倉先生より黒川清流公園上部の高台に高層マンション群が建設され湧水が枯渇する恐れがあるという衝撃的なニュースが伝えられました。次の日に国分寺の真姿の池の湧泉がマンションの建設で危機にさらされた時に保全対策に尽力をされた神谷氏をお招きし、市担当者とミミネットの関係者との話し合いがもたれた。私も末席に参加させてもらったが業者が近隣の説明会で配布した資料での判断では国分寺の事例よりかなり深刻な事態が予想されるとの神谷氏の見解にショックを隠せませんでした。敷地に余裕があるのですからもう少し水脈に配慮したレイアウトが可能であったはず、市の対応も後手に回ってしまっている。

これに対して市側の説明はできるだけのことにはしているとの一点張りで、黒川湧水を守るという姿勢は残念ながら感じませんでした。緑と清流のまちをスローガンに掲げる以上、一部署に任せるのではなく「オール日野市」でこの問題に対処してくれることを願うばかりです。

投稿

黒川清流公園を守ろう！

環境大学OB会

大山末子

日野市の一環である、水と緑を大切にするためにも、護らなくてはいけないことだと思います。使われなくなった空き家などを活用する方法を考えてもらえないのでしょうか。

これからの工事が始まれば黒川清流公園の自然を壊すばかりでなく、地下水の水脈が変化してしまい、公園や他の家庭、多数の影響が及ぼすことは避けられないと思います。水があって当然であると誤解されがちな資源は、限りがあることを忘れてはならないですね。この大地と緑も、水があつてのことですから黒川清流公園は日野市民の憩いの場であり大切な財産。

市民が護らないで、誰が護るのでしょうか。

OB会メンバー 活動イベントニュース

- 降水量の測定：スタートの4名に続き3名が加わり計7名の有志により継続されている。
- 第14回身近な水環境全国一斉調査の結果について速報値の報告があった。6124地点 758団体が参加
- 北野水再生センター見学会提案される。11月16日（木）実施予定
- ソーラーカフェ（11月19、23日）、みんなの環境セミナー（11月25日）の紹介

OB会 輪読報告 題名 森林飽和 著者 太田猛彦

9月 第二章 — 日本の野山はどんな姿をしていたか（これが日本の山なのか？）

10月 第二章 — 日本の野山はどんな姿をしていたか（江戸の絵師が描く山、里山プームの盲点）

二 石油以前、人は何に頼って生きていたか（森しか資源のない社会）

発行人：市民環境大学OB会 飯島利三 編集担当：OB会 尾添俊二